

# 目銀所長のあさひかわ菜

13

旭川から宗谷本線で四十  
分ほど北上すると塩狩とい  
う駅があり、その付近に塩  
狩峠があります。明治に入  
り北海道には十一の国が置  
かれましたが、天塩国と石  
狩国の境付近のことか  
ら、そのような名前がつい  
たようです。ご存知のお  
り、石北峠(石狩国と北見  
国の境)、狩勝峠(石狩国と  
十勝国の境)、三國峠(石狩  
国、北見国、十勝国の境)

## 塩狩峠

なぞ、このような命名の例は他  
にもたくさんありますが、私  
の中で塩狩峠は特別の響きを持  
っています。

それは、今から二世紀も昔の  
一九〇九年(明治四十二年)二  
月二十八日、二十八歳の鉄道院  
(国鉄の前身)旭川運輸事務所  
職員(庶務主任)長野政雄氏が、  
峠の途中で連結器がはずれ逆  
走し始めた車両の下敷きにな  
り殉職した場所だからです。こ  
の勇気ある青年の行動のおか  
げで、車両は脱線を免れ、二十数  
名の命が救われたと記録されてい  
ます。そして、この実話をベース  
に、三浦綾子さんは「塩狩峠」と  
題する小説を書きました。主人公  
は、永野信夫。その巻頭には「一  
粒の麦、地に落ちて死なずは、唯  
一つに在らん、もし死なば、多  
くの実を結ぶべし」と誓われてい

ます。

同名の映画を見たことがあり、  
ストーリーは大体知っていました  
が、「水点」、「流水点」を読み終え  
たあと、三浦ワールドをさらに理  
解するために、読み始めました。

小説の中でまず注目したのが、こ  
の永野信夫の父貞行は日本銀行勤  
務という設定だったことです。福  
沢諭吉訓「天は人の上に人を造ら  
ず、人の下に人を造らず」を、身  
をもって信夫に示した人、公平・  
公正(フェア)な人で、立派な人  
格者として描かれていました。父  
の言葉(「背中」)が、その後の信  
夫の精神形成に大きく影響したこ  
とは想像し向かいません。

この小説のモチーフは、成長と  
共に変化していく永野信夫の心、  
すなわち信仰の強まりと共に岩盤  
のように強固になっていく、筋金  
のおおった生き方です。

たとえは、同じ鉄道院の同僚で、  
荒くれ男だった三堀に対して、永  
野が隣人として献身的に奉仕しよ  
うとする場面があります(それす  
らも、永野自身の中に、三堀を見  
下すような上から視線がなかった  
かどうか後から大きく反省をして  
います)。これも、実在の長野政雄  
氏の裏話に基づいており、鉄道院  
の中で誰の手にも負えない厄介者  
の職員がいると、同氏のもとに送  
られ、同氏はこのような問題職員  
と喰食を共にし、親身になって指  
導、当人を再生して活かしたとい  
う記録が残っています。多くの入  
が避けたいと思うような仕事や、  
自分の所掌を超えて公の役割を賈  
って出て、見事に解決するという  
苦当をやり続けたのであります。

自分を必要としている人のために  
尽くす尊厳、少しでも周囲や公の  
ため「死なす」との誓い、これが  
らの時代、ますます大事になって  
くるのではないのでしょうか。

また、永野は、幼馴染の親友吉  
川修の妹で、肺病と方リエスを患  
っているふじ子に対して「必ずあ  
なたはなあって、僕のお嫁さんに  
なるんだ。なちらなければ、ぼく  
は一生他のひととは結婚しませ  
ん」と語っています。あれ、これ  
はどこかで聞いた言葉。そうです。

これは、三浦綾子さんの夫光世さ  
ん(旭川市在住)が綾子さんに発  
した言葉です。三浦綾子さんは、  
難病のため、ほとんどの小説を光  
世さんに口述筆記してもらってい  
ますが、この小説は、夫婦二人三  
脚で書かれた第一号です。光世さ  
んは、文字とおりに世に光をもちた  
らす、とても心清らかな紳士です。

本を読み終えて、人間である以  
上、いずれば死ななければならな  
い『一粒の麦』が意味のある死に

方をするということが、いわば授  
かった人生を、日々にかに意義深  
く生きていくのかの裏返しであ  
るの思いを強く持ちました。

塩狩峠には、長野政雄氏の顕彰  
碑が立てられ、宗谷本線を列車が  
今日も通過しています。一月二十  
八日ないし、塩狩峠を通過するた  
びに、この思いを新たにしていま  
す。

(日本銀行旭川事務所長  
※毎月第一週に掲載します)

尾家啓之(おいえひろゆき)  
一九五八年(昭和三十三年)東  
京都生まれ。八一年(同五十六  
年)日本銀行に入行。米田ワシ  
ントンでの勤務や、橋本内閣の  
行政改革会議事務局への出向  
総務人事企画役などを経て、〇  
七年(平成十九年)から旭川事  
務所長。趣味は言葉全般。ミ  
ュージカル鑑賞が文芸。